

## 職員の公共交通通勤（e通勤）の状況について

市内の公共交通の維持確保を図るため、4月から市職員の有志による公共交通通勤（e通勤）をモニター実施している。4月1カ月間の参加状況および市職員モニターから寄せられた意見や感想を報告する。

### 1. 参加状況（H21.4.30現在）

#### （1）総括

4月1日現在の職員モニターは、55人（フル29、ミニ26）であったが、4月中に参加者が13人増えた。

	鉄 道		バ ス			計
	J R	K T R	全但バス	イナカー	コバス	
e通勤フル	11	1	19(2)	5(4)		36(6)
e通勤ミニ	14(4)		13	4(3)	1	32(7)
計	25(4)	1	32(2)	9(7)	1	68(13)

（ ）は、総合支所勤務者で、内書き  
鉄道とバスの併用者なし。全但バスとイナカーの併用者なし。

#### （2）J R・K T Rの参加実績 [単位：人]

	J R		K T R		計		
	人数	延べ 利用数	人数	延べ 利用数	人数	延べ 利用数	利用率
フル	11	293	1	31	12	324	64.3%
ミニ	14	92			14	92	
計	25	385	1	31	26	416	

延べ利用者数は、往復利用で2、片道利用で1をカウント  
利用率は、実績の延べ利用者数 ÷ (4月の勤務日数(21日) × 2 × フル参加者数)

#### （3）バスの参加実績 [単位：人]

	計		利用率
	人数	延べ 人数	
フル	24	479	47.5%
ミニ	18	48	
計	42	527	

延べ利用者数は、往復利用で2、片道利用で1をカウント  
利用率は、実績の延べ利用者数 ÷ (4月の勤務日数(21日) × 2 × フル参加者数)

### 2. 職員モニターの主な意見・感想

- ・バスの出発時刻に合わせ、朝がゆっくりでき、意外と快適だ。(50代男性)
- ・先日も定時後に打合せをしていたが、帰りのバスの時間に合わせて切り上げた。(50代男性)
- ・電車の時刻を気にして仕事をするのは疲れる。でも、時間を効率的に使っていると実感できた。(30代男性)
- ・久しぶりに本を読んだ。結構この時間の過ごし方が気に入っている。(40代男性)
- ・犬の散歩の回数が増えた。(40代男性)
- ・帰宅時間が決まるので、家に帰った瞬間食事にありつける。(50代男性)
- ・バスの時間が定時走行にならないことが多々あり、遅刻を気にしないといけない。  
(40代男性)

- ・帰りのバスの時刻が早くて、帰りの便はなかなか利用できない。したがって、朝から自家用車で来るか、突発的に遅くなる場合は他の帰宅手段を用意する必要がある。  
(複数男性)
- ・家を出る時間が30分も早くなり、朝があわただしい。(40代男性)
- ・道路に枝がはみ出る等、バスの通行に支障がある箇所が分かった。(50代男性)

### 3. 実施効果

1カ月間、68人の職員モニターが公共交通通勤に取り組み、延べ943回公共交通を利用した結果をまとめると以下の実施効果が考えられる。

JR各駅の乗降客数は江原駅で274人、豊岡駅で436人増加し、これは平成19年度の月平均乗降客数のそれぞれ1.1%、0.5%に相当する。また、全但バスの利用者は462人増加し、これは、平成19年度の月平均利用客数の0.5%にあたる。特に、イナカー(河野辺線)の利用者については利用者数で50名と数は少ないものの、これは3月の一般利用客の10%にあたり、路線の維持に大きく貢献すると考えている。

地球温暖化ガス排出抑制に関しては、国土交通省の算出方法にあてはめると、CO<sub>2</sub>の排出量は2,400kg-CO<sub>2</sub>削減される見込みで、これは1.5リットルのペットボトル約80万本に相当し、平均的な杉の木約2,060本が1ヶ月に吸収する量に相当する。

仕事の効率化を促進するとともに、通勤を読書時間に充てるなどの私生活の充実も図られ、規則正しい生活リズムができることにより健康管理の向上にもつながる傾向が見られた。